市民啓発施設の情報交換

桑名市
クルクル工房
《三重県桑名市》

桑名市クルクル工房

http://www.city.kuwana.lg.jp/articles.html?id=3849

名古屋大学エコトピア科学研究所　特任講師　岡山（おかやま）　朋子（ともこ）

三重県桑名市は、「そうは桑名の焼き蛤」でもおなじみのように、伊勢湾と長良川河口に面した人口14万2千人の都市。また、木曽三川を渡ればすぐに愛知県という立地から、名古屋市のベッドタウンでもあります。

この桑名市にある「クルクル工房」は、2001年3月に開設され、今年2011年で10周年を迎えます。クルクル工房は、2002年からNPO法人の輪リサイクル思考によって運営されています。現在の事務局長である渡辺さんにお話を伺いました。

「クルクル工房で行っている活動には、資源物回収とリユースショップ、環境教育活動があります。また、別のNPOが運営していますが、併設されている堆肥舎では市民が持ち寄ってくれた生ごみを堆肥化しています」。

資源物回収は桑名市の自治会回収よりも5品目多い18品目。古新聞や米袋等の紙類、缶などの金属類、びん類、ペットボトル、布類（毛布やカーテンもOK）、そして一次処理された生ごみ、乾電池、蛍光管です。開館は水曜日から日曜日までの週5日、毎日資源物を集めています。2009年度の実績は、総回収量は2.349tで、その売り上げはおよそ900万円でした。

資源物の回収は駐車場の横で行われていますが、そこから建物の中に入ると、リユースショップ「クルクルショップ」が広がります。

写真1　資源物回収

写真2　クルクルショップ店内の様子

クルクルショップでは、市民から提供された不用品を売っています。主なものは衣類、食器、子ども用品、本などです。また、掲示板には大型家具や家電製品の情報が張り出してあります。取材ついでに、つい私もタンクトップとボトム、そしてキャスケットを買ってしまいました。総額250円！洋服だけではなく着物も。なんと、小紋と帯のセットが2,000円。目利きの渡辺さんいわく「近年は良い着物がなかなか集まらなくなりました」とのこと。着物離れしているからなのでしょうか。

その他、浴衣を利用した布草履や着物の端切れで作った置物など、スタッフ手作りのリユースグッズもそれぞれかわいらしく、ごみでごみを作ったなどとは絶対に言わせない作品が数多く売られていました。そういえば桑名は千羽鶴で有名なところ。連鶴は桑名市の無形文化財です。ひょっとしたら器用な方が多いのかもしれません。

2009年度の実績では、リユースショップへの持ち込み点数は11万4千点で、年間の売り上げはおよそ700万円でした。

さて建物内にはセミナールームもあり、そこには環境に関するパネルや写真が常に展示され、環境関連書籍やビデオも見ることができます。桑名市が市民と協働で策定した一般廃棄物処理基本計画も、その策定の過程で会場として使ったのは、このセミナールームでした。ちなみに、その市民会

議においては、輪リサイクル思考の皆さんがファシリテーター（司会）を務めました。ここでは小学生の環境教室や中学生の職業体験などの環境教育プログラムのほか、おもちゃ病院、傘直し、リフォーム教室などが開催されています。

特にリフォーム教室は人気があるとのこと。古布を使ったホームウェアづくりや布草履づくりなど、月に１～３回、開催されています。着物の着付と帯結び教室もあります。これで着物をひとりで着られない現代の若者も、クルクルショップの着物を安心して買うことができるでしょう。

これらの活動のため、スタッフが平日は11名、土日休日は13名勤務しています。イベント等が開催されるときにはさらに数名が加わり、総勢48名の会員でローテーションを組んで運営しています。

課題は、教室を開催するときの技能者の養成。現在、48名の会員のうち、20名ほどが何らかの技能を身に付けているそうです。が、技能を習得して指導者になるには2、3年かかる上に、会員が年々高齢化していることが悩みだといいます。

最後に生ごみの堆肥化の取り組みを紹介します。こちらはNPO桑名生ごみ堆肥センターが運営しています。

この生ごみリサイクルの特徴は、生ごみをあらかじめ家庭で一次処理させてから持ち込むことです。一次発酵した堆肥を市民が持ち寄り、そのときにできあがっている堆肥をもらって帰ります。その完熟堆肥を衣装ケースなどに入れて床材とし、そこに生ごみを入れて自宅で一次発酵させるのです。そしてまたクルクル工房に持ち込むという循環です。堆肥舎では温度管理をしつつ、しかし何も加えず、電気も使わず、切り返しのみで完熟させるという最もオーソドックスな自然発酵の堆肥をつくっています。真横にはアパートがあるのですが、そこからも苦情がほとんどないほど、においもありません。生ごみ減量と堆肥化普及のため、ときどき生ごみ堆肥づくり講習会も開いています。

写真３　クルクル工房の堆肥舎

写真４　クルクル工房の外観

クルクル工房は早くからNPOによって運営されています。実は開設計画があがったときに、桑名市廃棄物対策課ではごみとリサイクルに関する市民の意識調査を行い、あわせてごみに関心がある市民を「ごみの話をしようよ」と公募し、討論会を開きました。この公募で集まったメンバーがNPOを設立し、市から委託されてクルクル工房を運営するようになったのです。輪リサイクル思考の現在のスタッフ、そしてOB・OGたちは、今も桑名市の３Rを支えています。行政だけではなく市民が協働して10年も運営してきたことに、桑名市も市民も、それぞれ誇らしく思っているようでした。

こんなクルクル工房には、視察や見学者も多く訪れます。2008年度は1,173名、2009年度は794名が視察にきたそうです。是非皆さんも桑名市近くにお越しの際には、お立寄ください。ここでは語りきれなかったアイディアや機能が、まだまだ満載の施設です。